

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号 41

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇希望する進路が達成できる高校になっているか(学習・進路指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 先生は熱心に学習指導に取り組み、専門的な知識が豊富で授業内容について信頼ができるとの評価を得ている。 学習塾の必要性を感じる生徒が約4割・保護者が約6割いることに対して、今後どのように指導をいくのかを考える必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇希望する進路が達成できるよう学力の向上を目指し、授業の改善・充実を図り、小テスト・自宅学習・考査・模擬試験への取組を充実させる。</p> <p>◇はつらつ講座・地域課題解決型キャリア教育などキャリア教育の充実を図る。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 各学年部の取組を中心に、進路指導部が協力して学力の向上を図ると共に、改革推進・進路指導部が各分掌の協力のもとキャリア教育の充実を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 授業研究の充実、定期考査や模擬試験等の結果の分析と学力向上に繋がるアクティブラーニングの研究・実践、入試問題研究会等への積極的な参加。</p> <p>(2) 「はつらつ講座」「地域課題解決型キャリア教育」等キャリア教育関係行事の充実。</p>	<p>(1) 生徒による授業評価、大学合格者数、対外模擬試験の全国レベルでの達成度。</p> <p>(2) 教員の各種研究会での発表や参加者数。</p> <p>(3) キャリア教育関係行事の実施回数・参加者数。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 授業評価や各種考査の結果などを基にした授業のさらなる充実。 キャリア教育を推進するための外部活力との積極的連携。 各種研究会への教員の積極的な参加及び発表。 	<p>①生徒の学力は向上したか。</p> <p>②生徒の進路希望を高めることができたか。</p> <p>③職員の取り組む姿勢に熱意が感じられたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○教師はアクティブラーニングを取り入れた授業改善を進め、生徒が主体的に授業に関われるように努めた。 ○生徒は各キャリア支援プログラムに積極席に参加し、視野を広めた。 ○主権者教育推進事業の指定を受け、主権者教育と地域課題解決型キャリア教育を統合させ、生徒が地域の大人と話すことで、視野を広め考えを深めることができた。 ●学力向上に繋がるように授業改善に取り組んでいるが、大学入試にその成果が現れていないのが現状である。 ●生徒が地域で活動していく事は大切であるが、授業はもちろん家庭での学習や部活動もあり、生徒に過剰な負担をかけている場合がある。 	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>アクティブラーニングに対する研究も進めながら、生徒の進路目標実現のためのさらなる授業改善を目指す必要がある。</p> <p>地域課題解決型キャリア教育は、市議会や市役所、NPOなどの強力な支援を得て行っている。来年度は、外部活力の協力のもと、教員・生徒の負担がより少なく、生徒の成果がより多くなるように、企画・実施していく。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成 29 年 2 月 3 日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒の皆さんは落ち着いていて、授業風景には感心させられた。生徒のアンケートを見ると先生に対する評価が高く先生とうまくいっていることがわかる。授業中も生徒との対話があり、意思疎通が良好である点が伝わってきた。
- ・学習塾の必要性を感じている生徒が半数近くいることについては、過度に気にする必要はない。
- ・改革推進部の主権者教育という難しい課題に真正面から挑戦していることがすばらしい。数少ない地域参加で当事者意識の向上に限界があるのであれば、繰り返しが大切である。

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号	41
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇礼儀正しい高校生を育成する高校になっているか。(生徒指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー・社会規範、服装・頭髪・に関する指導に対する肯定的評価が高い。 ・いじめや差別に対する対応について、肯定的評価が79%いるが、逆に否定的評価が6%いることも少ないからといって見逃せない。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇遅刻者の一層の減少。 ◇情報モラルに関わる問題の減少。 ◇端正な身だしなみ。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者に対する指導を、教育相談とも連携して行う。 ・1年生は、早期に集中的に情報モラル指導を行う。 ・身だしなみ指導では職員全員でのチェックカード方式をとる。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 毎朝の遅刻者指導と呼出し指導	(1) 遅刻者延べ数 年間600回以下	
(2) 身だしなみチェックカードと個別指導	(2) 呼び出し指導 年間10件以下	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の全職員での遅刻指導 ・チェックカードによる個別指導 	①遅刻者が前年より減少したか。 ②制服の着こなしの適正化。	A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の遅刻が、ここ10年で最も少なくなった。 ○1年生で情報モラル違反の指導を受けた生徒は皆無であった。 ○身だしなみでは、指導を受ける生徒がほとんどいなくなり、生徒の意識が高まったと思われる。 ●スマホについては、約束事を明文化し、許可願いを提出させ、「使って学ばせる」指導をしているが、約束事がやや建前になっているのもあり、再考の時期に来ている。 	
12 来年度に向けての改善方策案	1年の遅刻が激減したとはいえ、来年度増加する心配も多いので、心身の健康管理はもちろん、楽しい雰囲気や充実感を味わえる授業の実践を目指し、遅刻を減らすだけでなく、欠席者も減らすように指導をしていきたい。 定期考査期間約3週間の「夜間スマホ等自粛期間」を来年度も継続していきたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年2月3日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルが気がかりだったが、指導の充実ぶりが伝わってきた。 ・皆勤を目標とするクラスがあったが、何か特別な指導をしているのか。 ・廊下もきれいで、トイレも清潔にしており、中庭もすっきりして気持ちがいい。
--

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児高等学校

学校番号	41
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
2 評価する領域・分野	◇交通安全教育に重点を置く高校になっているか。(生徒指導)	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・交通安全への取組に対する肯定的評価は、生徒96%、保護者91%でと高い評価である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・自転車事故の減少 ・交通安全啓発活動の充実・通学路整備	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員の3班方式による登校指導と保護者の協力による登校指導 ・可児警察署や自動車学校との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) PTAの方々と共同開催の登校指導 (2) 自転車点検、交通講話、集会指導	(1) 交通事故件数の減少 (2) 自転車の交通マナー違反者の減少	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・早朝に多くの職員・保護者の方の参加により登校指導を行い、挨拶、身だしなみを含めた指導を行った。 ・交通マナー徹底のため、マナー違反者に対する切符制度を導入している。	①交通事故件数が減少したか。 ②登下校時の交通マナーが向上したか(苦情や違反者は減ったか)。	A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	<p>○交通事故件数は2、3年生が激減したことにより、昨年並みであった1年生に集中しており、1年生の転倒による自損事故が多かった。</p> <p>○自転車マナー違反者は昨年度に引き続き、少数であった。指導に素直に従える生徒も増えてきた。</p> <p>○可児警察署及び可児自動車学校と連携して、1年生を対象に早い時期に交通安全教室を可児自動車学校で開催し、交通安全意識を実践的に高めることができた。</p> <p>●苦情も昨年と同様にあった。機会ある毎にマナー意識向上を訴えているが、学校から離れた場所での交通マナーの改善に努める必要がある。保護者の車での送迎のマナー・規則違反にも苦情がある。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>・「危険予測」と「習慣化」の2つを今年度に引き続いて啓発していく必要がある。1年生の転倒事故が目立ったため、初期指導に転倒防止指導を考える。また、自転車の並列での事故も多いため、並列進行の指導も強化する。「自転車は凶器にもなり得る」ことを意識した運転を心掛けさせたい。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成29年2月3日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業ギリギリで登校する自転車の生徒で、無茶な運転をする子がいる。危ないと思うことがあった。 ・可児高生の交通マナーに対する周辺住民からの苦情は減少しているが、自転車の並列走行は対処をお願いしたい。横断歩道を渡らせるとき、車を止めるばかりでなく、生徒の方を待たせる指導も必要ではないか。 ・生徒送迎時の保護者の車で渋滞になることがある。
